

第6学年*組 道徳科学習指導案

指導者 坂本 朋章
R3研修センター長期研修

1 主題名 本当の友達とは B(10) 友情、信頼

2 ねらいと教材

- (1) ねらい 友達との関わりについて考え、よりよい人間関係を築こうとする心情を育てる。
- (2) 教材名 「ロレンゾの友達」(日本文教出版 「小学道徳 生きる力 小学校6年」)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、小学校学習指導要領の第5学年及び第6学年の内容項目Bの「主として人との関わりに関すること」の(10)「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。」を深めることをねらいとしたものである。これは中学年の内容項目「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。」を受け、さらに中学校の内容項目B(8)へとつながっていくものである。6学年になると、児童は学校の中心となり、落ち着いてくる一方で、固定化した人間関係の中で、仲のよい友達しか受け入れられないような傾向も見られる。また、お互いの人間関係に遠慮し、間違いを指摘することにためらいもある時期だと考える。そのため、友達との関わりについて考えることで、これまでの友達との関わりについて振り返り、お互いに信頼し合い、よりよい人間関係を築こうとする心情を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態と教師の願い (調査日 令和*年*月*日 調査人数*人)

よい友達とはどんな友達ですか。							
・優しい	*人	・相談に乗ってくれる	*人	・助け合う	*人	・親友	*人
・仲良くできる	*人	・思い合ってくれる	*人	・すごい友達	*人		
・信頼し合える	*人	・意見を聞いてくれる	*人				
・泣いたり笑ったり怒ったりできる			*人	・気持ちを分かってくれる			*人
・悪いところを注意してくれる			*人	・〇〇さんみたいな人			*人
友達と上手に付き合うにはどのように関わればよいですか。							
・嫌なこと、悪口を言わない	*人	・仲良く	*人	・喧嘩しない	*人		
・聞き上手になる、話を揃える	*人	・大切にする	*人	・理解し合う	*人	・優しく	*人
・気持ちを考える	*人	・信頼し合う	*人	・愛想よく	*人	・敬う	*人
・普通に振る舞う	*人	・分からない	*人	・思いやり	*人	・話す	*人

アンケートの結果から、よい友達とは、「優しい」、「相談に乗ってくれる」、「助け合う」などの回答が比較的多いことが分かる。また、友達と上手に付き合うには、「嫌なこと、悪口を言わない」、「仲良く」、「喧嘩しない」などの回答が多かった。このことから、児童が友達との関わりについて、自分なりに捉えて回答していることが分かる。しかし、お互いに信頼をしているからこそ友達関係が成り立っているということや、友達を信頼しているからこそ相談をしていること等、友情の根底にある部分までの考えには至っていないと考える。そのため、優しく、仲良くという友情に留まるのではなく、教材を通してお互いに高め合い学び合える友情、信頼について考えることで、児童自身の友達との関わりについて、考えを深めていきたい。また、問題解決的に教材の内容について考えることで、本当に正しい判断は何かを模索し、友達との関わりについて考え、よりよい人間関係を築こうとする心情を高めたい。さらに、それぞれの登場人物の立場や視点から多面的・多角的に考え、これから実際に会えるかもしれない友達との問題に対しても主体的に解決できるようにし、よりよい人間関係を築こうとする心情を育てたい。

(3) 教材について

本教材は、友達としてどのような対応をすればよいのかを考え、問題解決的に正しい行為を模索していけるように、物語が設定されている。アンドレ、サバイユ、ニコライの3人は、共通の友達であるロレンゾからの手紙を受け取る。ロレンゾが20年ぶりに故郷に帰ってくるという内容の手紙だが、3人はロレンゾが警察に追われているという噂を耳にする。ロレンゾに再会したとき、3人はどうすべきか。逃がすのか、警察へ行くのか。友達としてどう対応することができるかを、多様な意見を出し合い、考えることができる教材である。この教材の特性を生かし、本当の友達の在り方を様々な角度から意見を出し合うことで、友達との関わりについて考え、よりよい人間関係を築こうとする心情を育てたい。

(4) 指導観

導入では、事前にとったアンケートの結果を提示し、友達との関わりについて問題意識をもてるようにする。展開では、3人の考えを整理し、その対応について自分なりの立場を明らかにできるようにする。また、自分がロレンゾの友達だった場合や、3人が迷っている理由を切実に考えることで、友達との関わりについての考えを深めていきたい。また、多様な考え方、解決策を模索することで、多面的・多角的に考え、友達との関わりで大切なことは何か、考えを広げたり深めたりすることができるようにする。終末では、3人の友達の思いを振り返ることで、友達との関わりについての思いや願いをもてるようにする。このように、問題解決的な学習を通して、自分の考えを深め、友達との関わりについて考え、よりよい人間関係を築こうとする心情を育てたい。

4 本時の指導

(1) 準備・資料

教科書、ワークシート、場面絵、デジタルホワイトボード

(2) 展開

	主な学習活動と発問	予想される児童の反応	指導の手立て、評価（評価方法）
導入 5分	1 課題を提示し、友達について考える。 友達との関わりで、大切なことは？	・仲を良くする。 ・話を聞いてあげる。 ・優しく接する。	・事前アンケート結果を提示し、友達との関わりについての問題意識を高める。
展開 30分	2 教材「ロレンゾの友達」を読み、話し合う。 ○「3人の考えをどう思いますか。違いは何ですか。」 ○「あなたは誰の考えに近いですか。」 ◎「3人はどうして迷っていたのですか。」	・ニコライは許していない。 ・警察に連絡した方がよい。 ・私も逃がすかもしれない。 ・アンドレと同じで、ロレンゾが犯罪をしたか分からないから逃がす。 ・サバイユのように自首を勧めるが強くは言えない。 ・ニコライと同じで警察に知らせる。 ・大切な友達だから。 ・友達を信じたいから。 ・友達に正しく生きてほしいから。	・デジタルホワイトボードに発問を提示し、考える内容を明確にする。 ・3人の考えを整理し、何が問題なのか、何で悩んでいるのかを把握できるようにする。 ・場面絵を提示することで、登場人物の考えを視覚的に捉えやすくする。 ・3人の立場になって考えることで、多面的・多角的に考えられるようにする。 ・周りの友達との意見交換や話し合いを取り入れ、各自が意見を出しやすい環境を整える。 ・自分がロレンゾの友達だとしたら、どんな対応ができるかを考え、主体的な問題解決の思考を促す。 ・「3人に共通する思いは何か。」と問い返すことで、3人がロレンゾを信じたい気持ちを考えられるようにする。 ・「どうして3人は、話していたことをロレンゾに伝えなかったのか。」と発問し、3人の共通する気持ちを考えるようにする。
終末 10分	3 学習を振り返り、これからの生活について考える。 ○「友達との関わりで、どんなことを大切にしたいですか。」 4 教師の説話を聞く。	・お互いに信頼し合う。 ・本音を語り合う。 ・お互いのことを信じて行動する。	・本時での学んだことをヒントにして、自分の考えを深められるようにする。 友達とのよりよい関係について考えている。（発言・ワークシート） ・友達に励まされた経験を話し、友達のよさを実感できるようにする。